

「総合的な学習の時間」のプロジェクトにおいて「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素をどう引き出すか

小幡 肇*

Project for Period for Integrated Studies: Enhancing Qualities and Abilities through Inquiry Learning

Hajime OBATA

要旨 「総合的な学習の時間」にプロジェクト型の学習を取り入れる学校が見られるようになった。本研究は、「総合的な学習の時間」のプロジェクトにおいて、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素をどう引き出すかを探ることを目的とした。そこで、学生とプロジェクト「小冊子『北越谷の手焼き煎餅』を作成し小学校に配布しよう」に取り組んだ。そして、見学や体験活動・インタビュー活動・調べる活動・情報の整理・まとまりの抽出といった学習過程を踏んだ。さらに、関連しそうな実社会・実生活における問題の相談・検討・抽出を取り入れた。結果、学習上の手続きを丁寧にとることにより、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素「興味・関心を重視し、日常生活や社会にある事物や現象である」、「学習を動機付けたり、方向付けたり、支えたりするとともに観察したり調査したりするなど、直接体験をしたり繰り返し働きかけたりする」、「学習活動が豊かに広がり、発展するとともに自然事象や社会事象へと多様に広がり、実社会や実生活について多面的・多角的に考えることができる」ことを引き出すことができることが分かった。また、その精緻を高めるには、「探究的な見方・考え方を働かせ、総合的な学習を行う見通しをもつ」、「自分がどう関わるかという行動を引き出し、プロジェクトを自分の側に引き寄せ、子どもによる教材化に転じさせる」、「問うことを通して、関係を探ることに着目したり視野を広げたりする」ことが重要であると分かった。

キーワード：総合的な学習の時間の目標 探究的な学習の要素 プロジェクト型の学習
解決へ向けての追究

1. はじめに

文部科学省は、平成29年、小学校学習指導要領を改訂した。特色は、中央教育審議会答申（平成28年）を踏まえ、「子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指した」ことである¹⁾。

そして、『「生きる力」を子供たちに育むために『何のために学ぶのか』という各教科等を学ぶ意

義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していくことができるようにするため、全ての教科等の目標及び内容を『知識及び技能』、『思考力、判断力、表現力等』、『学びに向かう力、人間性等』の三つの柱で再整理」した。

以下、「総合的な学習の時間」の目標（平成29年度）である²⁾。

* おばた はじめ 文教大学教育学部発達教育課程

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総

合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

そして、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現することを目指して、「総合的な学習の時間」にプロジェクト型の学習を取り入れる学校が見られるようになった。

例えば、横浜市立大岡小学校（第6学年3組）は、「6－3ハチBOON BOONプロジェクト」を実践した。静岡市立清水江尻小学校（第5学年）は、「地域丸ごと学校だ！」を実践した。

そこで、本研究は、「総合的な学習の時間」のプロジェクトにおいて、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素をどう引き出すかを探ることを目的とすることにした。

2. 「総合的な学習の時間」のプロジェクトにおいて、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素

「総合的な学習の時間」のプロジェクトにおいて、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素を考えるにあたり、学習指導要領における、次のような記述に着目した³⁾。

「総合的な学習の時間」の学習指導は、「身近にある具体的な教材、発展的な展開が期待される教

材を用意する」。

そして、次の2点が、重要であるとする。

- ・教材は、探究的な学習として質の高い学習活動が展開されるように、児童の学習を動機付けたり、方向付けたり、支えたりするものであること
- ・児童の興味・関心を重視し、児童の身の回りの日常生活や社会にある事物や現象を適切に取り上げ、児童にとって学ぶ価値のある教材としていく

さらに、「総合的な学習の時間」の教材の特徴を、次のように示す。

- ・児童の身近にあり、観察したり調査したりするなど、直接体験をしたり繰り返し働きかけたりすることのできる具体的な教材であること
- ・児童の学習活動が豊かに広がり、発展していく教材であること。一つの対象から、次々と学習活動が展開し、自然事象や社会事象へと多様に広がり、学習の深まりが生まれることが大切である。また、生活の中にある教材であっても、そこから広い世界が見えてくるなど、身近な事象から現代社会の課題等に発展していくことが期待される
- ・実社会や実生活について多面的・多角的に考えることができる教材であること

つまり、「総合的な学習の時間」のプロジェクトにおいて、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素には、以下の3点があると考えた。

- 要素①子どもの興味・関心を重視するとともに日常生活や社会にある事物や現象である
- 要素②子どもの学習を動機付けたり、方向付け

「総合的な学習の時間」のプロジェクトにおいて「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素をどう引き出すか

たり、支えたりするとともに観察したり調査したりするなど、直接体験をしたり繰り返し働きかけたりする

要素⑨子どもの学習活動が豊かに広がり、発展するとともに自然事象や社会事象へと多様に広がり、実社会や実生活について多面的・多角的に考えることができる

3. 「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現することを目指すプロジェクト～「総合学習の研究」(文教大学, 平成30年度)

筆者は、「総合学習の研究」(文教大学, 平成30年度)及び「生活科・『総合的な学習の時間』授業実践論」(文教大学専攻科, 令和元年度)において、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現することを目指すプロジェクトとして「小冊子『北越谷の手焼き煎餅』を作成し小学校に配布しよう」を実践した。

そして、プロジェクト「小冊子『北越谷の手焼き煎餅』を作成し小学校に配布しよう」を通して、「総合的な学習の時間」のプロジェクトにおいて、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素をどう引き出すかを探った。

そこで、プロジェクト「小冊子『北越谷の手焼き煎餅』を作成し小学校に配布しよう」のねらいは、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」の観点をもとに、次のように設定した。

- ㊦地域には学習の素材があることに気付くことができるとともに地域素材を取り上げることによって子どもが主体的に学習を組織できることに気付くことができるようにする
- ㊧地域にある学習の素材との関わり方を体験することによって、教材開発の技能を身に付けることができるようにする
- ㊨地域素材をどのように取り入れていけば、子どもが地域素材をもとに探究する学習を歩む

ようになるかを考えることができるようにする。

以下、「総合学習の研究」(文教大学, 平成30年度)の様子である。

①プロジェクトの提示

まず、学生は、小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間」をもとに、理念及び内容や指導計画作成について概要をつかんだ。

次に、「奈良女子大学附属小学校『しごと』」の授業(3年「観光客がよく来る奈良」筆者)の録画と「横浜市立大岡小学校『総合的な学習の時間』」の授業(6年「ミツバチ・プロジェクト」)の録画を視聴した。そして、問題発見・解決型の学習とプロジェクト型の学習について検討した。

その後、プロジェクト「小冊子『北越谷の手焼き煎餅』を作成し小学校に配布しよう」を提示した。

そして、「総合的な学習の時間」の理念及び内容や指導計画作成を手がかりにして、プロジェクトについて考えた。

②地域素材「北越谷の手焼き煎餅」を作る体験活動

北越谷駅近くの手焼き煎餅店「松葉屋」に出かけ、店の人が焼く様子を見学し、焼き方の講習を受けた。そして、手焼き煎餅作りの体験活動を行った。

【煎餅を焼く手順】

- ㊦木製の四角い道具の下の囲いの中に、火鉢が入っている。
- ㊧木製の四角い道具の上段の囲いの中に、日に作っておいた煎餅を置き、蒸らす。
- ㊨蒸らした煎餅(半円状に丸まっている)を、左手で持った鉄の道具で押さえて平らにしながら焼く。(蒸らしてあるので鉄の道具で押さえても割れない)
- ㊩右手で持った箸で煎餅を両面焼く。
- ㊪焼きあがると、刷毛で醤油を塗り、さらに焼く。

【手焼き煎餅を焼く体験活動】



③説明を聞いたことや焼く体験活動を通して思ったこと等を使ってインタビュー活動

学生は、体験活動や説明を受けたことをもとにインタビューを行った。その際、インタビューのコツとして、次のような指導を行った。

【インタビューをみつける指導】

「説明に出た言葉を聞きとめる」+「けれど、なぜ～ですか?」とつなげる

例えば、「『前日に煎餅を作って一晩置いておく』と言われましたが(けれど)、なぜ一晩置いておくのですか」と、聞いた説明の背景や意味を問うインタビューを行うことができる。

焼く体験活動を通して思った「重たい鉄で押さえると割れそう」を使って、「重たい鉄で押さえると割れそうだけれど、なぜ重たい鉄で押さえても煎餅は割れないのですか」と、手焼き煎餅の作り方の秘密を問うインタビューを行うことができる。

④「北越谷の手焼き煎餅」についてインターネットやパンフレット等を活用して調べる活動

インタビュー活動後、学生は、インターネット

やパンフレット等を活用して調べる活動を行った。

そして、調べた事柄のキーワードを付箋(黄色)に書き、模造紙(全紙の大きさ)の上で、KJ法的手法を取り入れて相談・整理した。

【学生が相談・整理・検討した模造紙】



次に、学生が相談・整理した結果をもとに、「手焼き煎餅」、「街道」、「川」、「米作り」というまとまり(キーワード)を抽出した。

その後、整理したまとまりを意識して、調べた事柄の付箋(黄色)を貼り付けた。そして、その周辺に、関連しそうな実社会・実生活における問題を相談・検討し、付箋(ピンク色)に書き、貼り付けた。

⑤調べた事柄を疑問に作り替える活動

学生は、調べて見つかった事柄を分かったこととして捉え、学びのまとめに入ろうとする。

そこで、先の「インタビューのコツ」を活用して、調べた事柄に「けれど、なぜ～?」をつなげて疑問に作り替える活動を行った。例えば、江戸時代にお菓子があったという事実を受け、「けれど、なぜ～?」と、疑問(「江戸時代にお菓子があったけれど、なぜ江戸時代にお菓子があったの?」)に作り替える。

そして、全員(12人)で計100個の疑問をつくることを目指した。しかし、100個には到達せず、68個の疑問が出来上がった。

⑥「北越谷の手焼き煎餅」の小冊子を作る活動

学生は、再度、調べる活動を行った。その際、小冊子作成に向けて、問題となることを検討した。

㉗68個の疑問について、どのようなまとまりを作り、疑問をどのような配列にするか。

【結果】68個の疑問を整理し、内容としてのまとめをみつける。そして、そのまとまりを小冊子の「章」とする。その際、子どもが興味・関心を抱きそうな事物・事象から始めるようにする。

㉘「小学生が読みたくなる小冊子にするにはどうするか」。つまり、小冊子のプロットについての検討である。

【結果】章のタイトルを工夫する。例えば、1章「手焼きせんべいの『おかし』なところ」、2章「おせんべいの米（コメ）ント」3章「おんせべいfeat Soy Sauce（ソイソース）」、4章「River（リバー）を知river（リバー）？」、5章「元荒川をもっと、もーっっっと知りたい！」、6章「街道の解剖」、7章「鳥居のトリック」、特別編「田んぼアートの魅力にせまる!!」と、言葉遊び的な要素を取り入れた。

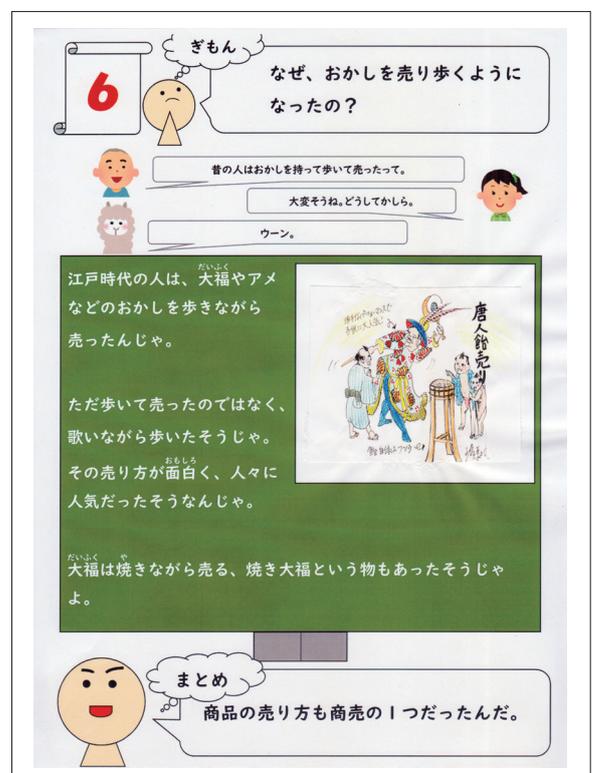
㉙一つの章の中の疑問の配列順をどうするか？つまり、表面的な疑問から深層的な疑問への配列についての検討である。

【結果】例えば、1章「手焼きせんべいの『おかし』なところ」については、「①江戸時代のおかしってどんなおかし？」、「②なぜ季節や縁起に関係のあるおかしが作られたの？」、「③なぜ、桜もちには桜の葉がまかれているの？」、「④おかしは1ついくら？」、「⑤おかしはどこで売られていたの？」、「⑥なぜ、おかしを売り歩くようになったの？」、「⑦なぜ、和菓子がへったり、和菓子を食べなくなったの？」と、疑問の配列順を考えた。

㉚各頁ごとに、問題解決の過程を学ぶことができるような紙面構成をどう工夫するか。

【結果】まず疑問の提示をする。そして、子どもが思い浮かべそうな予想や推測を書く。次に、疑問の解決につながる情報を示す。その際、専門家からの聞き取り調査をイメージできるような文章にする。最後に、まとめを示す。

【学生が考案した紙面構成】



【学生が作成した「あとがき」】

「手焼きせんべい100の？」を讀んでいただきありがとうございます。まずは作品を完成させることができ、私たち学生12名安心していると同時に嬉しく思います。タイトルが「手焼きせんべい100の？」なのに68個しかなくない？と思われた方が多いと思います。実はもともと100個作る予定でしたが、学生の時間の都合上減らさざるをえなくなってしまい68個になってしまいました。また表紙も先に作り上げてしまったこ

ともあり、100のままになってしまいました。お詫び申し上げます。

さて、作品は教育学部社会専修3名・特別支援専修5名・児童心理教育コース4名と異なる12名の学生により執筆しました。それぞれの専門性を生かした見方・考え方で協議を行いました。話し合いにおいても12名全員が集まる時間が限られており、また1回の集まりで様々な活動内容を決めなくてはならず、大変な思いをしました。

しかし、本作品を作るにあたっては、総合的な学習の時間の良さに気付くとともに、手焼きせんべいについても多くのことをすることができました。体験にもとづく活動だからこそ、興味・関心が持ちやすく、体験やお話から生まれた？を解き明かしていくことが、「なんで？」を「そうなんだ」と自己解決へと向かわせる1つの重要なポイントなのだ気付かされました。今回の活動を私たちが教師として教壇で活躍するときの糧にできたことを大変嬉しく思います。(下線、筆者)

「あとがき」には、体験に基づく活動の良さが綴られている。そして、体験や聞き取った話を疑問にして解き明かすことが、「なんで？」を「そうなんだ」と自己解決へと向かわせる重要なポイントだと、学んだことが綴られている。

さらに、『やり遂げることができるようになった自分』という、より成長した自分についての意識を育てることができた喜びや、教師としての自己の在り方につなげる学びが綴られている。

⑦作成した小冊子「北越谷の手焼き煎餅」をどうするかを考える

最後、調べる際の手続きのまずさ(安易な引用)を問題視する意見が出た。結果、自分が持つておくことがよいと、学生は判断した。

4. 「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現することを目指すプロジェクト～「生活科・『総合的な学習の時間』授業実践論」(文教大学専攻科、令和元年度)「生活科・『総合的な学習の時間』授業実践論」(文教大学専攻科、令和元年度)は、学生が2名だったため、パンフレット作成に変更した。

【学生が作成したパンフレット】

2. おいしい「草加せんべい」を作ってみよう

Q. 小学生でも、おせんべいを焼くことができますか？
A. もちろん！お箸が苦手な子でもできますよ！

Q. 作りたてと乾燥したおせんべいは、どちらがうの？
A. 作りたては、しっとりした食感とやわらかめだけど、乾燥したら、パリッサクッの食感とたかくなるよ。味にちがいは……ありません！

Q. 1日に焼くおせんべいは、どのくらいですか？
A. だいたい600～800枚くらいだよ。
焼いているのを見たら、8時から15時にお店に来てね。

Q. おいしいおせんべいが食べられるのは、何日開？
A. 夏は10日間、冬は2週間くらいかな。
でも、しょうゆがとんじゅうから早く食べてね！

Q. お仕事のやりがいを感じるのは、どんな時ですか？
A. お客様から「おいしい」って言われる時だな！

次へ

おせんべいのひみつ道具

焼く前に、生地をぬかせる！ふくらむひみつは、ここにあるよ！

炭を使っているよ。中までしっかり焼けるのは、これのおかげ！

ホイロ

知っていた？おせんべい屋さんは、お天気無常なんだって！

おっと…。いけね！忘れていたよ。せんべいは、うるち寒、しょうゆ、店によっては、みりんをつかっている！

押しがわら

押しがわら、重たかったよ…。それに焼いている時、とって重かった！

その際、調べる際の手続きのまずさ(安易な引用)を改善するため、体験活動の後の調べる活動において、市役所や煎餅屋等への聞き取り調査を充実することにした。そして、子どもが見やすく、楽しく分かることを目指してパンフレット(計13枚のPowerPoint)を作成した。

まず、構成は、「タイトル『越谷のすごいところ、見付けたよ』」、「目次」、「1. 越谷市のすごいところを知ろう！」とした。

そして、手焼き煎餅店「松葉屋」での体験活動とインタビュー活動にもとづく、「2. おいしい「草加せんべい」を作ってみよう～Q&A・作り方『生地』『焼く』『ひみつの道具』」を作成した。

「総合的な学習の時間」のプロジェクトにおいて「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素をどう引き出すか

さらに、市役所での聞き取り調査にもとづく、「おせんべいのことをもっと教えて～QアンドA」,「かわいい『お雛様』をかざろう～QアンドA」,「かっこいい『甲冑』はみんなのあこがれ～QアンドA」,「何度ころんでも起き上がる『だるま』のヒ・ミ・ツ」,を作成した。

最後に、総合的な学習の探究のサイクルを意識して、「越谷市のすごいところは外国の人にも人気」と「みんなに越谷市のすごいところを伝えたいな」を作成した。

【外国に視野を広げる文章】

越谷市のすごいワザを外国に伝えるのに、いろいろな工夫をしています。例えば、写真のようにワインとかのボトルに甲冑(かっちゅう)を組み合わせたたりしています。

外国のものとコラボしている理由は、この越谷市のすごいワザをのこすためにやっているからです。

しかし、越谷市のすごいワザを受けつぐ人がいないため、少しずつ失われつつあります。

そのために、越谷市役所がすごいワザをPRしたり、かざったりするお手伝いをして支えています。また、お金を出したりお店の方の支援をすることで、より活動がしやすくしています。

5. 「総合的な学習の時間」のプロジェクトにおいて、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素をどう引き出すか

「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現することを目指すプロジェクト「小冊子『北越谷の手焼き煎餅』を作成し小学校に配布しよう」を通して、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素をどう引き出すかについて探る。

まず、手焼き煎餅店に出かけ、見学・講習・体験活動・インタビュー活動・調べる活動を行っ

た。そして、調べた事柄について、KJ法的手法を取り入れて相談・整理した。

その後、相談・整理した結果をもとに、「手焼き煎餅」、「街道」、「川」「米作り」というまとまり(キーワード)を抽出した。そして、関連しそうな実社会・実生活における問題を相談・検討・抽出した。

次に、調べた事柄を疑問に作り替える活動、調べる活動を行った。

さらに、小冊子作成に向けて、問題となることの検討、疑問の配列、小冊子のプロット(表面的な疑問から深層的な疑問へ)、各頁ごとに問題解決の過程を学ぶことができる紙面構成を考えた。

そして、作成上の役割分担を決め、作成した。

結果、作成した小冊子や「あとがき」から、学生は、設定したねらい⑦⑧⑨を達成することができたことが分かる。

つまり、プロジェクト「小冊子『北越谷の手焼き煎餅』を作成し小学校に配布しよう」を通して、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素をどう引き出すかについて、以下のことが言える。

第一点、一連の学習過程を踏むといった、学習上の手続きを丁寧にとることである。

プロジェクト「小冊子『北越谷の手焼き煎餅』を作成し小学校に配布しよう」は、手焼き煎餅店見学・講習・体験活動・インタビュー活動・調べる活動・調べた事柄の整理・まとまり(キーワード)の抽出といった一連の学習過程を踏んだ。

つまり、学習上の手続きを丁寧にとることにより、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素⑦⑧⑨を引き出したのである。そして、探究のサイクル「課題の設定、解決に向けた情報の収集・分析・検討・整理・まとめ・表現」を実現した。

要素⑦子どもの興味・関心を重視するとともに

日常生活や社会にある事物や現象である

要素⑧子どもの学習を動機付けたり、方向付け

たり、支えたりするとともに観察したり調査したりするなど、直接体験をしたり繰り返し働きかけたりする

第二点、活動を進めるに伴って「かべ」が生じ、その「かべ」を認知し、「かべ」を乗り越えて、課題を達成しようと取り組むことである。

藤井千春は、「総合的な学習の時間」のねらいを「自分の力でものごとをやり遂げて、自分らしく生きていく能力と意欲を育てる」とした⁴⁾。

そして、「学習と生活、『学ぶこと』と『生きること』との統一・連続を図ることが要点」となり、「問題解決に向けて自ら学び、努力や工夫をして取り組んでいくという学習活動を通じて、『自己の生き方を考える』機会やきっかけが生まれることが重要」であるとした。

その際、「問題」について、以下のように述べる。

自分の「思い・願い」に根ざして進められている活動、自分が設定した課題についての追究が、「かべ」に突き当たったとき、すなわち、その実現に向けての進路に克服すべき妨害や行き詰まりの存在を認知したときに、「問題」は成立する

藤井は、自分の活動を進めるに伴って「かべ」が生じ、その「かべ」を認知することによって「問題」は成立するとした。そして、「かべ」を乗り越えて、「自分の『思いや願い』を実現しよう、あるいは自分の課題を達成しようと取り組むことが、『解決』へ向けての『追究』」であるとした。

そのような追究を「豊富に体験することにより」、「子どもたちの能力と意欲、さらには『やり遂げることができるようになった自分』という、より成長した自分についての意識を育てる」ところに「『問題解決』の人間形成における意義がある」とした。

プロジェクト「小冊子『北越谷の手焼き煎餅』

を作成し小学校に配布しよう」の一連の学習過程に、関連しそうな実社会・実生活における問題の相談・検討・抽出を取り入れたことにより、作成した小冊子や「あとがき」から、「自然事象（川）や社会事象（街道・米作り）へと多様に広がった」ことを見ることができた。

また、小冊子作成に向けて、問題となることの検討、疑問の配列、プロット（表面的な疑問から深層的な疑問へ）、各頁ごとに問題解決の過程を学ぶことができる紙面構成を考えることを取り入れたことにより、「実社会や実生活について多面的・多角的に考える」ことを見ることができた。

つまり、プロジェクト「小冊子『北越谷の手焼き煎餅』を作成し小学校に配布しよう」の一連の学習過程に「かべ」を設定することにより、「総合的な学習の時間」のプロジェクトにおける「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素⑤を引き出したのである。

要素⑤子どもの学習活動が豊かに広がり、発展するとともに自然事象や社会事象へと多様に広がり、実社会や実生活について多面的・多角的に考えることができる

6. 「総合的な学習の時間」のプロジェクトにおいて、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素を引き出す精緻を高める

プロジェクト「小冊子『北越谷の手焼き煎餅』を作成し小学校に配布しよう」の改善を図るところは、どこだろう。そして、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素を引き出す精緻を高めるには、どうすればよいのだろう。

そのため、筆者が、プロジェクト「小冊子『北越谷の手焼き煎餅』を作成し小学校に配布しよう」を提示したところに焦点をあてることにする。

そして、池田市立池田小学校（山田知香教諭）第3学年「総合的な学習の時間」のプロジェクト

「公園を探検しよう」の導入授業との比較を通して、「総合的な学習の時間」のプロジェクトにおいて、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素を引き出す精緻を高めることについて探ることにする。

以下、山田の導入の授業の様子である。

①山田は公園の探検を話題とした

山田は、公園に探検に行くことを、試しの話題として投げかけた。

T. 総合の時間に、久しぶりに公園に探検に行きたいなと思うのですが？

C. (一斉に) やったあ、コロナなのに(様々なつぶやきが出る)。

T. 探検に行くって、できますか？

C. 何もできない(複数の児童がつぶやく)。

試しの話題として投げかけたことが功を奏した。希望的に「できる」と言いたいところを、コロナ下での現実に照らして捉え、「できない」と発言する姿が見られた。

そして、自分の思いや願いに根ざした活動を欲しているが、その進路に「かべ」が生じることを推測している様子うかがえた。

そこで、山田は、子どもの様子が探検に必要なことを考える活動への弾みとなると判断し、2人組で探検に必要なことを相談する学習指導を行った。

T. では、2人組で話し合ってみましょう。

②山田は話し合いでの言葉に着目する

T. では話し合ったことを教えてください。

C. メモ。(「メモに書くポイントとか」とつぶやきや「うんうん」とうなずきが出る)

T. 今、いい言葉が聞こえてきました。「例えば」。

山田が子どもの言葉「例えば」に着目し、「例えば」を使って考える子どもを育てたいという学習指導の構えをもっていたことから生まれた働きかけである。

C. 例えば、計画(「うんうん」とうなずきや「いるいる」、「ないと困る」とつぶやきが出る)

C. 例えば、持ち物とか(「うんうん」とうなず

きや「ビデオとか」とつぶやきが出る)

子どもは、「例えば」を使うことによって、探検に必要なことを具体的にすることができた。

T. 他に探検にいるもの、ある？

C. 勇気!! (大きな声で発言する)

C. ばんそうこ

この発言は、なかなか生まれるものではない。探検を自分ごととして捉えるからこそ生まれる言葉である。山田は、計画や持ち物等の即物的なものをみつけることを期待していたうえでの問いかけであったろう。

しかし、その山田のもくろみを打破し、山田に「子どもは力を持っている」、「子どもの感性は教師の狭い捉え(教材観)を拡充する契機を示す」と気付かせた場面であった。

そして、「確かに探検やからね」と共感した。

山田が提示した探検を、子どもは自分ごととして捉え、自分の側に引き寄せた。教師による教材化が、子どもによる教材化に転じたと考える。

結果、子どもは、何が起きるか分からない探検に着目し、進路に克服すべき妨害や行き詰まりの存在を認知した。そして、けがをした際に必要なものを提案したのである。

③子ども自身が何を見るか(探検)を具体的にする

プロジェクト(学習)を自分ごととして捉え、自分の側に引き寄せ、子どもによる教材化に転じたことが、プロジェクト(学習)の動機付け、方向付け、支えることとなった。そして、観察したり調査したりするなど、直接体験をしたり繰り返し働きかけたりすることに着目することを可能とした。

T. では、めあてを考えましょう。(「たんけんではしらべたことを」まで板書して続きを考えさせた)。

C. グループで話し合って・・・(つぶやく)

山田がめあてを決定するのではなく、子どもが自分の学習を見据えて、子どもがつくるものであるという学習指導の構えに根差していることがうかがえた。

子どもによる、めあての設定は、自分が探検で何を見るかを考えるという楽しみにつながった。そして、自分の思いや願いを実現しようと、ノートに「探検で見るもの」を書いた。

A児は、「広さ、ひみつきち、どんなお花がさいているか」と書いた。B児は、「どんなゆうぐがあるか、公園のとくちょう」と書いた。

自分との関わりにおいて、探検で探したいものを考えていることや、疑問を持って関わろうとしていることが分かる。

つまり、生活科の学びを生かして、自分との関わりから、探究的な見方・考え方を働かせていると考える。

その後、山田は、4人組で交流する学習指導を行い、全体での共有へとつなげた。

子どもは、公園の仕組みや広さ、咲いている花等、披露した。そのような中、C児が、「ブランコに穴があいていたなら、なんでかな？を見る」と発言した。

子どもは、C君の言っている「ブランコに穴があいているとはどういうことなのか」と、意味を問うた。また、「ブランコに穴があいているとどういうことになるのか」と、ブランコと穴の関係を問うた。

そして、「公園を調べた人に聞きに行く」、「公園を作った人にインタビューに行く」等、疑問の解決を目指し、観察したり調査したりするなど、直接体験をしたり繰り返し働きかけたりすることに着目した発言を生み出した。

つまり、公園の遊具と管理する人の関係を探ることに着目し、同じようなことはないかと、視野を広げたのである。

そして、「ひみつのことが分かったら、『実は』と分かる」と、探究的な見方・考え方を働かせ、総合的な学習を行う見通しをもつことができた。

C. 実は、って？

C. 他の公園では・・・（「ああ」とつぶやき）

C. みんなが知らなかった・・・（「ああ」とつぶやき）

C. じっと見て、分からないこと・・・（「ああ」とつぶやき）

T. 同じようなことが言えることはないかなという

C. すべりだいの下を見たい

④比較・考察～各教科等で働かせた見方・考え方を活用する

山田のプロジェクト「公園を探検しよう」の導入授業から、各教科等で働かせた見方・考え方を活用することが、「総合的な学習の時間」のプロジェクトにおいて、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素を引き出す精緻を高めると分かる。

生活科は、子どもの身近にある事物・事象を学習の対象とし、自分との関わりを通して自立への基礎を学ぶ。第3学年「総合的な学習の時間」は、生活科の学びを生かし、接続することが大切である。

池田小学校第3学年「総合的な学習の時間」のプロジェクト「公園を探検しよう」は、生活科の学びを生かし、各教科等で働かせた見方・考え方を活用することができている。

そのため、自分の思いや願いに根ざした活動が生まれ、その進路に「かべ」が生じさせた。そして、プロジェクトを、子どもは自分ごととして捉え、自分の側に引き寄せた。教師による教材化が、子どもによる教材化に転じた。

結果、子どもは、何が起きるか分からない探検に着目し、進路に克服すべき妨害や行き詰まりの存在を認知した。そして、けがをした際に必要なものを提案した。

また、「ブランコに穴があいていたなら、なんでかな？を見る」との発言をきっかけにして、「どういうことなのか」と、意味を問い、「ブランコに穴があいているとどういうことになるのか」と、ブランコと穴の関係を問うた。そして、「公園を調べた人に聞きに行く」、「公園を作った人にインタビューに行く」等、疑問の解決を目指し、観察したり調査したりするなど、直接体験をした

り繰り返し働きかけたりすることに着目した発言を生み出した。

つまり、公園の遊具と管理する人の関係を探ることに着目し、同じようなことはないかと、視野を広げたのである。

そして、「ひみつのことが分かったら、『実は』と分かる」と、探究的な見方・考え方を働かせ、総合的な学習を行う見通しをもつことができた。

結果、「総合的な学習の時間」のプロジェクトにおいて、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素を引き出す精緻を高めるには、以下の3点を工夫することであると分かった。

第一点、各教科等で働かせた見方・考え方を活用する。そして、探究的な見方・考え方を働かせ、総合的な学習を行う見通しをもつ。

第二点、自分の思いや願いに根ざした活動に生じる「かべ」を認知し、「かべ」を乗り越えて課題を達成しようとする取り組みといった、自分がどう関わるかという行動を引き出す。そして、プロジェクトを自分の側に引き寄せ、子どもによる教材化に転じさせる。

第三点、問うことを通して、関係を探ることに着目したり、視野を広げたりする。

7. 今後の課題

本研究は、「総合的な学習の時間」のプロジェクトにおいて、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素をどう引き出すかを探ることを目的とした。

結果、「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現する要素⑦⑧⑨を引き出すことや精緻を高める工夫をすることであると分かった。

しかし、より多くの「資質・能力の育成につながる探究的な学習となる」ことを実現することを目指すプロジェクト型の学習を収集し、探る必要がある。今後の課題としたい。

(注)

- 1) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間』東洋館出版社、2018年
- 2) 前掲書、文部科学省、2018年
- 3) 前掲書、文部科学省、2018年
- 4) 藤井千春『子どもの求めに立つ総合学習の構想』明治図書、2000年